

平成28年3月2日3月三次市議会定例会を開議した。

1 出席議員は次のとおりである（25名）

1番 吉岡 広小路	2番 須山 敏夫	3番 池田 徹
4番 新家 良和	5番 福岡 誠志	6番 鈴木 深由希
7番 澤井 信秀	8番 小池 拓司	9番 桑田 典章
10番 山村 恵美子	11番 宍戸 稔	12番 平岡 誠
13番 小田 伸次	14番 林 千祐	15番 岡田 美津子
16番 齊木 亨	17番 杉原 利明	18番 亀井 源吉
19番 保実 治	20番 國岡 富郎	21番 大森 俊和
22番 竹原 孝剛	24番 伊達 英昭	25番 助木 達夫
26番 沖原 賢治		

2 欠席議員は次のとおりである（1名）

23番 久保井 昭則

3 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名（24名）

市長 増田 和俊	副市長 高岡 雅樹
副市長 瀬崎 智之	政策部長 藤井 啓介
<small>総務部長 併三次市選挙管理委員会 事務局 局長</small> 福永 清三	財務部長 部谷 義登
地域振興部長 白石 欣也	<small>産業環境部長 兼農業委員会 事務局 局長</small> 花本 英蔵
福祉保健部長 日野 宗昭	<small>子育て・女性支援部長</small> 瀧 奥 恵
教育長 松村 智由	教育次長 中 宗 久之
建設部長 上岡 譲二	水道局長 坂本 高宏
市民部長 森本 純	市民病院部長 山本 直樹
君田支所長 落田 正弘	事務部長 沖田 昌子
作木支所長 加藤 良二	布野支所長 木屋 繁広
三良坂支所長 岡本 一彦	吉舎支所長 三和 支所長 勝山 修
甲奴支所長 内藤 かすみ	監査事務局長 落合 裕子

4 職務のため議場に参加した事務局職員の職氏名（5名）

事務局長 大鎗 克文	次長 丸 亀 徹
議事係長 才田 申士	政務調査係長 明賀 克博
政務調査主任 瀧熊 圭治	

5 会議に付した事件は次のとおりである

日程番号	議案番号	件名
第 1		一 般 質 問 小 田 伸 次 新 家 良 和

平成28年3月三次市議会定例会議事日程（第4号）

（平成28年3月2日）

日程番号	議案番号	件名
第 1		一 般 質 問 小 田 伸 次……………181 新 家 良 和……………198


~~~~~ ○ ~~~~~

——開議 午前10時 0分——

○議長（沖原賢治君） 皆さんおはようございます。

傍聴者の皆様及び視聴者の皆様には、傍聴お越しをいただき、また御視聴いただきまして、まことにありがとうございます。

本日は一般質問3日目を行います。

ただいまの出席議員数は24人です。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議録署名者として、林議員及び小田議員を指名いたします。

この際御報告をいたします。

本日の会議の欠席者として、久保井議員から一身上の都合により欠席する旨、届けがありました。また池田議員から本日の会議に遅参する旨、連絡がありましたので、御報告をいたしません。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 一般質問

○議長（沖原賢治君） 日程第1、これより一般質問を行います。

順次質問を許します。

（13番 小田伸次君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 小田議員。

〔13番 小田伸次君 登壇〕

○13番（小田伸次君） 皆さんおはようございます。

今任期中、最後の一般質問の機会、そして最終日トップバッターとして質問させていただきます。会派ともえの小田伸次でございます。

今回の議会で勇退される諸先輩の議員の皆様、大変今までお疲れさまでございました。敬意を表しますとともに、今後の御活躍をお祈りいたします。

今回の私の一般質問でございますが、大きく2点を質問として上げさせていただいております。ただ、この1問目、27年度総括はという質問でございますが、本来であれば、これは決算委員会のところで精査していただいて、またそこでこれまでの成果というふうにまとめられて報告があるものと思いますけれども、今回の中で質問させていただきますので、現段階のところでのお答えできることを答えていただければというふうに思いますし、2問目のこの28年度の予算という形の質問に関しましては、今後予定されております決算委員会の中での総括質疑というところとダブるところもあろうかと思いますが、会派代表で質疑される方にはまことに申しわけございますが、ちょっと私がお場で質問できませんので、御理解を賜りたいというふうに思います。

それでは、第1問目の平成27年度の総括ということですが、常日ごろから市長もよく申されておられます、この三次のブランド化というようなことも含めまして、27年度、市長も

2期目、1年目を過ごされて、この政策を行われ、今現在のところ、この三次のよさのアピールはどうだったのかということを経過的にちょっとお伺いしたいと思います。

(市長 増田和俊君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 増田市長。

[市長 増田和俊君 登壇]

○市長(増田和俊君) 総括ということで、具体的にはもう分担をして、副市長なり、また担当部長のほうでお答えをするということで御理解をいただきたいと思います。

1期4年、さらには2期目に当たって、間もなく1年目を迎えるわけですが、やはり私どものめざす姿というのは、第2次の総合計画にありますように、市民の皆さんが幸せで、また住み続けたいまち、これを第1に掲げながら、そして三次市が高速道を2本クロスするまちという、これは西では九州の鳥栖付近、あるいは三次ということになろうかと思っておりますが、そうした拠点性、利便性、優位性というのを生かしたまちづくりということの中で、今、職員一丸となって進めておりますし、また地方創生、追い風の1つには捉えていきたいと思っておりますが、国を挙げての地方創生、これらも子育て、あるいは定住、大きな課題を含めたそうした面を中心に事業を展開していこうということでございますが、私どもは決して自慢するつもりはありません。いろんな専門、小冊子という雑誌を含めて、三次市の評価をいただいております。

PRといいますか、三次市の認知度はどうかというのは、言葉ではかり知ることはできませんが、やはり専門的な分析の中で、朝日新聞の出版社、いつも言っており恐縮なんですが、「AERA」を含めて三次市の今、今日における姿を評価していただいております、これがまさに三次の今、現実に起こっておる状況であろうと思っておりますし、また、この12年間、間もなく12年になりますが、そこで蓄積した都市機能というのは物すごく大きな財産になろうと思っております。

そうした生かし方を、今、ステージ1、ステージ2、ステージ3というような形で、県外の岡山県も含めて、今、展開して、観光客も昨年の1年を、今、集約しておりますが、恐らく300万人を超えてお越しいただいておりますかと思っておりますし、また、酒屋エリア、魅力性、スルーされないまちということなので、これまでの歴史の中で蓄積しておいた、そうした施設に加えて、子供のあそびの王国、あるいは産直市のトレッタみよしと、そうしたワイナリー、美術館、スポーツ施設等々に加えて整備したと。

さらに、これから南部農道が開通すれば、100ヘクタールなるピオーネが生えておる丘陵地を生かした、また自然を生かした展開もできるということで、決してスルーされるまちには、私はなっていないと思っておりますし、その一環として昨年の5月には3,100人ぐらい、10日間にわたって、岡山県から美術館、ワイナリーへ団体で10日間、10台ずつ来てもらっておる、そういうような状況で、私はいろいろな角度で分析していくべきであろうと思っておりますが、決して知名度がおくれておると思っておりますし、これから誇りの持てるまちづくりをどう描いていくか、これがまさに議会の皆さんと私ども執行部の責任である、それが市民の付託に

えていこうと思っております。

そういう面で、文化とか、観光とか、企業とか、いろんな面でこれから御質問をいただきますので、具体的に、誠実にお答えをさせていただきたいというふうに思っております。

以上でございます。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) ありがとうございます。総括的に市長のほうから答弁をいただきました。

三次がいろんな意味で評価を得たりするわけですけども、その全般的にこの三に次と書いてみよしと読む、この三次のまちをいかにPRしていった知名度を上げていくかというのは、今後大変な重要な施策の一環であろうというふうに思います。そういう形で全国のそういった書籍なんかで取り上げていただける部門、こういった部門、小さい線かもわかりませんが、それを磨き育てることによって、また全国にこの三に次と書いた三次のまちを知っていただけるものだろうというふうに思います。

そういった中で、三次もいろんな文化と伝統を持っております。そういった今までの取組の中で、多分皆様の中で目にされた方もいらっしゃるのではないかなと思いますが、本年1月の11日、日本経済新聞の一面に取り上げられました、この三次の稲生物怪録というものが書かれたのを御存じかとは思いますが、御存じない方もいらっしゃるかとは思いますが。そういったもので、全国の一面にも取り上げてもらえるものがこの三次にはある、そういったことは、いろんな意味でお伝えしたりもしてきておりますけれども、今度の三次のまちづくりにもそういった面が取り入れられてる面もあるのは承知しております。そして、この3月14日にNHKのほうの生中継もこの三次のまちで行われるという状況、これを取り上げるのはやっぱり稲生物怪録でございます。

これは確かに線が細い面かもわかりませんが、全国にこれは通用するものだと、三次が持っている文化、財産だというふうに私は考えておりますけれども、それ以外でも、この三次の文化というものをこの27年度、今までも一緒に、市はどういうふうにこの文化面を全国に広げようとして取り扱ってこられたのか、また、そういうことによって、どのぐらいの方が三次の地に訪れられてるというふうに把握をされているのかということをお伺いしたいと思います。

(教育次長 中宗久之君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 中宗教育次長。

[教育次長 中宗久之君 登壇]

○教育次長(中宗久之君) まず、市内4つの美術館についてでございますけれども、いずれも昨年度に比べて入館者数を伸ばしております、1月末時点での入館者累計数を比べますと、4館合計で昨年が6万4,000人、ことしが約8万8,000人で、2万4,000人、37%の増加というふうになっております。

また、辻村寿三郎人形館につきましては、同様に1月末時点を比べますと、昨年が約8,000人、ことしが約9,300人ということで、1,300人、16%の増加というふうになっております。

また、昨年度開館いたしました市民ホールきりりについては、今年度に入って1月末時点で7万9,000人を超えており、旧三次市文化会館の年間の入館者数が5万人前後で推移していたことと比べ、大きくふえてございます。

以上のように、市内の文化施設の入館者数につきましては、今年度になって軒並み増加しておりまして、各施設において魅力ある企画展やイベントを実施し、市内外に積極的にPRしている成果というふうにとめております。

経済効果につきましては、詳しく集計したデータはございませんけれども、各文化施設において経済効果が上がることに繋がる取組を行っております。例えば、奥田元宋・小由女美術館では、企画展中の満月のときには広島市からの満月パッキングツアーを行っております。また、先ほどちょっと市長のほうから紹介がありましたけれども、昨年5月には岡山の信用組が企画したツアーに同美術館を組み入れていただきまして、3,100人を超える入館者を受け入れております。

市民ホールにおきましては、2月21日に開催いたしました講演において、市内観光をセットにいたしましたバスツアーにより、中国地方の各地域から500人を超える入館者をお迎えをいたしております。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) ささまざまな取組で、今、三次のほうに観光に、この文化を目的としたお客さんが見えになつるという答弁であったかというふうに思いますが、ただ、三次の持っている魅力というのは、美術館とかいうもんじゃなくしてでも、過去にも私はいろいろと言ってきたと思いますけれども、地層であったり、古墳であったりというようなことも言って、その扱いというか、保護というか、そういったものが置き去りになってるんじゃないかという質問をしてきたと思います。

例えば、看板がもう設置したときからいうと、年数がたって傷んでいると。今年度の予算の中でその看板設置というふうなところも書いてありましたので、それが今後、どのように整備されるのかなというところは注目して見ていきたいとは思いますが、やはりそういったものを三次が持っている、三次でないとだめだというようなものというものをしっかりと見詰め直して、こういった教育面に関して、子供たちにもこの三次のよさ、これを誇りに思ってもらえるようなところにどどん力を入れていかなければいけないんだろうと思います。地元の方が誇りを持たないと、外からお見えになったお客様は決してよいというふうには捉えてもらえないと思いますので、そこの辺のところは教育の面でしっかりと携わっていただきたいというふうに思います。

今後、ちょっとこれは来年度の、2問目のほうにちょっと行きかかりますけれども、先ほど言

いまして、今年度、28年度の予算の中で看板を、これは誘客するための誘導看板の整備として予算要求されてたのかどうか、それとも、今ある看板をきちっと直そうというふうに要求されてたのか、そこを1つちょっとお答え願えますでしょうか。

(教育次長 中宗久之君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 中宗教育次長。

[教育次長 中宗久之君 登壇]

○教育次長(中宗久之君) 看板についての御質問ですが、今年度、一部、看板についてもやりかえさせていただき予定にしておりますし、来年につきましても、また新しく看板も含めて検討してまいりたいというふうに思っています。

誘導看板につきましても、今あるものも含めて、現地にちゃんと誘導できるような看板にしてまいりたいというふうに考えております。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) 先般もちょっとある訪れたところで、話がちょっと住民の方から出たんですが、この方は地層を見に来られたそうなんですが、看板もさびだらけ、整地も当然草刈りもされてない状況だったよと。その方が声をかけたんで何で来たのかというのがわかったということを知りましたので、今後、一度にはできないと思いますので、計画的にしっかりとやっていただきたいというふうに思いますし、先ほど私が稲生物怪録のことを申しましたけども、絵巻ですよ。絵巻というのはずっと飾ることができないものだというふうに思います。要するに、本物というものは休ませなければいけないし、展示を控えなければならぬこともあります。これはお金のかかることだと思いますけど、例えばレプリカをつくらうとか、そういう形での三次の文化財を守っていこうという考えはありませんでしょうか。

(教育次長 中宗久之君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 中宗教育次長。

[教育次長 中宗久之君 登壇]

○教育次長(中宗久之君) 今、稲生物怪録のレプリカという御質問でございますが、これにつきましても、結構貸し出し等もございますので、レプリカの作成についても検討していきたいというふうに考えています。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) しっかりとその辺のところを大事に取り組んでいただきたいというふうに思います。

そして、今度はそういった文化面以外にも三次の取組として、中国やまなみ街道(尾道松江線)が開通して1年が経過しようかというふうに思いますが、この間、先ほど市長もおっしゃ

いました中国自動車道とやまなみ街道がクロスするこの三次のよさ、交通の至便さというものをPRした観光、27年度に対する入り込み観光客に対する政策等々の展開により、経済効果がこの三次市にどのぐらい見込めたのかということをお聞かせ願いたいというふうに思います。

観光客は確かにふえたようにも思いますけども、客単価、これというものがかなり今は少ないのではないかとこのように推測しますけども、その面についてのお答えをお願いいたします。

(地域振興部長 白石欣也君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 白石地域振興部長。

[地域振興部長 白石欣也君 登壇]

○地域振興部長(白石欣也君) 平成27年、観光においては暦年で公表させていただいていますが、27年の総観光客数、あるいは観光消費額につきましては、現在調査中でございまして、まだ集計ができておりません。これは県のほうで翌年の7月上旬ぐらいに公表を一斉にされるというものでございます。

ただ、中国やまなみ街道の全線開通がありました。そして観光客数や観光消費額も昨年を大きく上回るものと今、推測をしております。これは中国やまなみ街道の開通を見据えて、山陰・山陽方面をターゲットに行ったプロモーション事業の効果もあると考えておまして、また、全線開通に合わせて酒屋地区にオープンさせたトレッタみよしの効果も大変大きいと言えます。

先ほどのキャンペーンのプロモーション事業の効果という部分では、ちょうど最近のニュースで岡山倉敷をターゲットにしっかりPRしてきたんですが、これは2月28日に山陽新聞にそのツアーの広告を出したところですね、翌日には1日でもう完売になったと。96名、バス2台分のツアー、これは吉舎の街並みや三次町の街並み、あるいは奥田美術館、ワイナリーあたりをセットにしたツアーということで企画したものです。そういったように、岡山方面は非常に好調でございます。

それから、先ほどのトレッタみよしにつきましては、12月に30万人を、3月からの来場者が超えておりますし、三次ワイナリーや君田温泉森の泉につきましても、利用者、売上ともに伸びてきております、そういったお話も伺っております。この2つの自動車道がクロスする拠点性、優位性を生かした取組、まちづくりを進めてきた成果というものが総合的にその効果があらわれているのではないかとこのように考えます。

また、これまで三次市で隔年開催しておりましたプロ野球公式戦、3年連続の開催が決まって、ことしも6月28日ヤクルト戦ということで開催が決まっております。これは市長を先頭にしたPR、招致活動とともに山陽方面からも集客できるという、三次市の拠点性が評価されていることだと感じております。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) こういったやまなみ街道が開通して1年ということで、やっぱり初年度

というのはいろんな意味でお客さんはお見えになるんだろうというふうに思いますが、これをいかに継続させていくかという戦略的な取組が必要だろうと。先般、新聞にも出ておりましたけども、福山にも今度ワイナリーをつくろうというふうな計画が上がっておりましたけども、そうすると福山のワイナリー、世羅にもワイナリー、三次のワイナリー、これを悪い、いや、非常にライバルができてしまったと捉えるのか、いいライバルができた、好敵手ができた、よし頑張ろうと捉えるのかによって、取り組み方、やり方がまた違ってくるのではないかなというふうに思いますので、今後もそういった、前向きに取り組んでいく政策、施策を展開していただきたいというふうに思います。

まだ集計ができ上がってないというところなので、この続きは、もし機会があるのであれば、決算のところでまた質問をさせていただければなというふうに思います。

また、27年度の取組として、ちょっと産業面のほうについてお伺いしたいんですけども、三次では産学官の連携に対する負担金で、これは補助金でしたかね、金額もありますし、大学連携というところに対する取組も記されております。

今回もレターケースの中に、このみよし産学官連携セミナーというものも入ってございましたけども、これはセミナーだけを開催しても、やはりこういった先にあるもの、いかにこれが三次の発の、例えば商品化、産業化、それによって起業されるとかいうところへつなげていかないといけないのではないかなというふうに考えますけども、27年度、この産学官連携であったり、大学連携であったりという取組の成果等々はどのように捉えられておるか、お聞かせ願いたいと思います。

(産業環境部長 花本英蔵君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 花本産業環境部長。

[産業環境部長 花本英蔵君 登壇]

○産業環境部長(花本英蔵君) 産学官連携の取組でございますけど、ということになりますと、一応三次イノベーション会議という会議が大きくかかわってきますので、イノベーション会議の目的と主要構成組織、そしてその成果という形で御答弁させていただければと思います。

三次イノベーション会議は、県立広島大学が有しております研究成果、機能などを産業界の事業活動に生かし、活力ある地域への再生に貢献することを目的に、三次商工会議所、三次広域商工会を主要構成組織として結成しているものでございます。

事業といたしましては、産学官連携セミナー、何でもサロン、補助金制度である産学官連携推進支援事業などを実施しています。これらの事業を通じて、成果ということでございますけども、チシャトウや、シモン芋を原料とした食品、ゆず果汁入り飲料、アスパラパウダーのように6次産品化され、または成分分析などにより商品の付加価値が高まった例も少なくありません。

また、三次市では、三次市6次産品化支援事業補助金や三次市地域産品開発支援事業補助金などの制度を定めておまして、これまで米粉、米粉パン、チーズ、ルバーブ酢、漬物、お茶など、6次産品の製造、設備、機器の導入などを支援しております。今後、三次商工会議所や

三次広域商工会と連携して、一層、制度の周知に努め、6次産品化を進めてまいりたいと思います。

そして、議員おっしゃいました、セミナーだけということをお話になりましたけども、イノベーション会議ではセミナーだけではなくて、いろいろな活動をしております。セミナーというのは基本的に、産学官セミナーは年1回の開催でございますけども、その支援、産学官連携支援事業でありますとか、1年間かける、そして1年で済まないものは2年程度はかけてやりましょうと、連携して。これは6次産品化、6次産業化だけをめざしているのではなくて、新技術や新製品の開発、新規事業開発も狙っておりますので、これまでも工業製品の機能保証、あるいは改良への助言等も行っています。いろんな分野で機能の分析とかマーケティングの販売、そういったことも範疇にしております。

あるいは何でもサロン、これは年数回実施しておりますし、企業工場見学、ビジネスフェア、これも年1回のペースでやっておりますし、先ほど申しましたセミナー、ワーキング会議とか、会議でありますとか、イノベーションだよりの発行等々、いろいろ活動をしております。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) 私はこの政策を否定するものじゃなくて、どんどんやってほしいと思っておる。なぜならば、先ほども言いましたように、この先に求めるもの、三次の財源確保につながっていく商品開発であったり、起業、起こすほうですね、起業、創業につなげていけるようなものとして、ぜひこれは頑張りたいだきたいというふうに思っておるわけでありまして。これをどここの大学との、瀬戸内海のほうではレモンを題材にしてどうのこうのというて出していますよね。そういった形で、この三次の取組で新たな商品、製品が三次市外、県外、もしくは今、TPPの問題もありますけども、国外に対してまででも売り込んでいけるようなところをめざして頑張ってもらいたいというエールを送りまして、次の質問に参りたいと思います。

次は、(2)の地域見守りモデル事業はどうなったのかということですが、ちょっとこれ、私、年度がいつだったかはしっかりと覚えておりませんが申しわけないんですが、たしかモデル地域で三次町を、これはケーブルテレビを利用したやり方ではなかったかと思いますが、見守りを取り組んでいきたいということで取り組まれたと思いますが、今、この市街地の中でもアパートでのひとり住まい、要するにひとり住まいの老人の方等々をどういうふうに見守っていくかというようなことが大きな問題にもなっておりますが、その辺の取組、いかがだったのか、そして今はどうなっているのかをお聞かせ願いたいと思います。

(地域振興部長 白石欣也君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 白石地域振興部長。

[地域振興部長 白石欣也君 登壇]

○地域振興部長(白石欣也君) 三次地区で行った安心生活支援システム実証実験、これは平成23

年5月から同年11月まで行った事業であります。

このシステムは、ケーブルテレビのセットトップボックスの起動の有無、つまりテレビのスイッチのオン、オフによって、毎日自動的に家族のメールアドレスへお元気メールや心配メールを送信し、心配メールが送信された場合に地域住民で組織される、ふれあい隊員が高齢者の安否確認を行うというものです。

これは三次地区の高齢者のみの世帯から25世帯、33名をモニターとして、約7カ月間実験を行い、アンケート調査も行いました。その結果、多くの方がこのシステムを安心、心強いと感じられた反面、ケーブルテレビの料金を負担に考えられている傾向もありました。最終的にピオネットより利用料金の提案を受けましたが、利用者にはケーブルテレビ加入が必須の条件であり、利用料金負担の問題とシステムに対する市の負担について費用対効果の面から地域に浸透することは困難と判断し、この事業化は見送りました。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) せっかく双方向のシステムである、このケーブルテレビの持つシステム、負担が大きいということで見送られたということですが、じゃあ、その負担がどこに行くかという、また地域の例えば民生委員の方であったり、そういったケアマネジャーとかいう形のところに、人的なところに行くのではないかなというふうに思うわけですね。それはかなり負担、そちらのほうの負担が今度は大きくなっていくのではないかなというふうに思うところもありますので、いま一度、せっかく三次が持つて、このケーブルテレビの光ファイバー、これをうまく利用した何がしかの方法はないか、もう一度私は考えてみるべきではないかなというふうに思いますので、もしよかったら今後の、また政策の中で検討していただければというふうに思います。

それでは、大きく2番の新年度予算編成についてという質問に入っていきたいというふうに思います。

先ほども言いましたように、今後のまた総括質疑の中で同じようなことを言われるところもあるかと思いますが、これはお許し願いたいというふうに思います。

今、日本全国で、政府の言う地方創生戦略の中でいろんなビジョンを示して戦っていかうととるわけですが、やはりこれはどの自治体も生き残りをかけた、これは戦いなんですよね。三次市も合併して、今、6万2,000あった人口が5万4,000を切っておる、この中でやはりよそとは違う政策を出していかなければ勝ち残っていけないだろうというふうに私は思います。どこも同じような政策、補助システムをつくられると思いますけど、三次はよりよいものだというふうに思ってもらわないといけないだろうと思います。

その辺に関して、今回の新年度予算で三次市の財源確保につながったり、人口増加につながったりという政策はどの辺のところに見てとれるのかということをお伺いしたいと思います。ここは特筆すべき予算編成であるよというところをお聞かせ願いたいと思います。

(財務部長 部谷義登君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 部谷財務部長。

[財務部長 部谷義登君 登壇]

○財務部長(部谷義登君) 御提案をさせていただいております平成28年度の当初予算の案でございます。市長のほう施政方針でも説明をさせていただいておりますけれども、第2次総合計画に沿いまして、幸せを実感しながら住み続けたいまちをめざして、あらゆる施策を展開するもの。特に、まち・ひと・しごとの関係、1つ目に子育て、教育、2つ目として定住対策、3つ目として観光交流、そして4つ目に農業、こういったことに重点的に配分をしたというふうに考えております。

個別には、予算の概要等で説明させていただいておりますけれども、新規の事業は70事業、そして拡充をする事業は45の事業ということで、地方創生につきましては自治体間の競争であるとも言われております。今回、特にソフト事業をそれぞれ先ほど言いました新規事業も含めて単体で実施するのではなくて、施策間の連携を高めて一体的なパッケージとして展開するようにさせていただいております。具体的にはさまざまな事業があるわけでございますけれども、予算案の内容につきましては、他のどの自治体に比べても負けてはいないと自負しております。

これらの施策の多くは、短期間で効果があらわれないというふうに思いますけれども、今後、2年、3年、5年と確実な施策の実行をすることによりまして、人口の減少を抑制をし、働く人をふやし、そして所得をふやしていくこと、そのことで税収の増につながるというふうにも考えておりまして、将来的に財源の確保につながるものというふうに考えております。

また、当初案では普通交付税が合併の優遇措置の終了ということで、削減がさらにされます。そういった中で、人件費、扶助費、公債費、そういった全ての義務的経費を削減をしております。約10億円近いものですが、特に公債費につきましては、これまでの行革の効果によりまして繰り上げ償還を行って、大幅な削減を行っております。こういった財源の確保をしながら、多くの新規事業や各種事業を計上したというふうに考えております。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) 今回の予算案の中でも、歳出のところを見ると義務的経費が39.4%という、40%を切ってるというのは、これは本当に努力もされておるんだろうと。ただ、議員も今度2名減りますし、そういったところも若干あるのかなとは思うんですが、そこは今までにないパターンかなと。

ただ、歳入の面のところを私は非常に気にしておるわけです。やっぱり自主財源が24.1%で、これ依存財源が75.9%。もう私、議員になったときからここをずっと言い続けるわけですね。自主財源をいかに確保していくかというところに向けた政策展開がなかったら、継続的に、この三次のまちを維持していったり、住民サービスを継続していったりするの難しい面が出て

くるのではないかということで、先ほども言いました、この28年度の予算の中で、よそにはない経済活動につながる、自主財源確保行動につながるような予算は特筆するところがありますかというたら、部長はどの分も自信を持ってというふうに言われましたけども、そういった選択と集中という言葉も市長も施政方針の中で言われたと思います。今、何に財源を投入して三次のまちを引っ張っていくのかと、これは大きなリーダーシップを市長のほうでも発揮していただいて、財源を振り分けてやっていかなければ、未来を見据えて今を行う、これが大事なんだろうというふうに思います。

その中で、今回、施設管理をどうするかということで先般、全員協議会の中で管理の方法について出ましたけども、その中でちょっと聞いてみたいと思います。

三次市の公共施設等の総合管理計画の中で、いろんな建物を整備したりしていきたいというふうなことでありました。件数にして3分の1というふうな言葉も出ておりました。その中でちょっと今回聞いてみたいのは、まちづくりセンターについてありますが、このまちづくりセンターの隣にあります土地改良区のほうは建てかえるというふうなことが、この前出ましたけども、当時、そのときにまちづくりセンターを利用したらどうかというふうなこともありましたが、それはなく、推移してまいりましたが、京蘭寺にありますまちづくりセンターを今後どのように活用していこうという計画があるのか、ないのか、その辺のところをお聞かせ願いたいんですが。ただ、今回の予算の中に3,500万円の解体費というのが入っておったと思うんですが、これはまちづくりセンターをどこかを解体しようという計画なのかどうかを付せてお伺いいたします。

(地域振興部長 白石欣也君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 白石地域振興部長。

[地域振興部長 白石欣也君 登壇]

○地域振興部長(白石欣也君) まず、まちづくりセンターの解体費かという御質問ですが、新年度に行うのは、まちづくりセンター別館のほうの解体という工事で行います。

それから、まちづくりセンターのほうですが、このまちづくりセンターにつきましては、現在、利用者も多く、市民の皆様幅広く利用していただける施設となっております。当センターの事業については、平成26年12月議会のほうで設置管理条例の一部改正ということで、青少年の健全育成に関することと女性の活躍促進に関することを新たな事業として加えることで条例改正を提案させていただき、全会一致で御可決いただいたところでございまして、これに基づきまして、今年度、みよしまちづくりセンターに青少年の指導員を配置しております。また、今後については、女性の活躍支援のための事業を検討しているところです。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) 今現在の学習センターのところにある機能もそちらに移してという、あれですよ、青少年センターをあちらに移してという。それも必要などころではあるとは思

ますが、私がちょっと思ってたのはですね、かなわなくなってしまったなど。と申しますのが、これは国の機関になりますが、ハローワークと労働基準監督署が別々に手狭なところにおりますが、特にハローワークというのは非常にわかりにくい場所にあり、駐車場もないという状況の中で、今現在、この社会情勢の中で利用される方がたくさんいらっしゃるということで、このまちづくりセンターのほうが生かせられないかなど。今言った労働基準監督署とハローワークにあそこに来ていただいてやってもらう。そして、あいた国の持つてる施設を地域の集会所か、その地域はどちらともございません。集会所というものはありません。それで地元のほうに受けていただいてやるという構想を練っておったんですが、今、答弁をいただいたところによると、まちづくりセンターはそういう形で利用したいということでありますので、私の案は消えてしまったのかなというふうに思います。

そしたら次にですね、その公共施設等総合管理計画等々で示されておりましたけども、三次の中で持つてる施設というのは、当然、建てれば年数がたてば傷むわけでありますが、その中で今回ちょっと三次運動公園のことについてお伺いしたいと思います。

今回もまた新しくスケートリンクでしたか、建設されるように計画されておりましたけども、アジア大会のときに整備いたしました、この運動公園もだんだん老朽化も進んでおまして、だんだん問題も出ております。その中で、後年つくりましたテニスコートでございますが、あのテニスコートの覆う屋根の、要は雨どいがないのが御存じだとは思いますが、その辺に対して、大会、雨が降ったら、下にもう滝のように水が落ちてきたり、雪ずりがしてきたりとか、その下で着がえをされたりする選手もいらっしゃるわけですが、そういったところに対する整備とか、そのテニスコートの中に更衣室が少ないとか、それとか大会をやるときに大会役員の方によって大体会議をしたりするわけですが、そういう会議をするところないとか、トイレが不便であるとかというふうなことが挙がっておるかと思いますが、そういった取組は今のところ検討の中には入っていないのでしょうか。

(地域振興部長 白石欣也君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 白石地域振興部長。

[地域振興部長 白石欣也君 登壇]

○地域振興部長(白石欣也君) みよし運動公園の屋内テニスコートにつきまして、屋根の排水につきましては、建設時の設計において、ドームの円形屋根の形状から、といにした場合は融雪時にとにかかるといわれる荷重により損傷が出ることから、屋根から直接排水路に落とす構造としたものでございます。雨や雪のとき、荒天時に通行される際に御迷惑をおかけしてということとは承知しておりますが、御理解をいただくようお願いをしているところでございます。

また、室内トイレ、更衣室、ロッカーにつきましては、屋内、屋外のテニスコート全体を使った大会のときには、確かに十分な数ではないというふうに思っておりますが、通常のサークル等の利用は特に支障がないものと把握しております。

また、テニス大会を開催するときの会議室につきましても、利用者の方から会議室があればというお声もいただいているというふうに把握してありますが、陸上競技場の会議室や、その利用、

あるいはテントを設置していただくと、公園内にテントも用意しておりますので、そういった施設設備を利用していただくようお願いしているところでございます。

なお、会議室を含めた、こういったものの新たな施設の整備は、現在のところ計画はしておりません。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) 先ほどの1番目のほうの質問でもいたしましたけども、せっかく尾道松江線自動車道が開通して、中国地方の中核都市として、要するに交通の至便がいいと、テニスの大会でも開いてくださいという意味で、面数もいい、現時点でもそういった中国5県の選手が集まってやる大会が結構開かれておると思うんですよ。そういうときに、こういうところはしっかりと目を向けてやっぱり整備すべきところはして、もう一度三次のあの会場で大会をちゃんと開きたいと思ってもらえるようにするのが、これが三次の魅力の磨き方じゃないですか。私はそう思うんですが、その辺のところをしっかりと今後も目を向けて取り組んでいただきたい。やはり三次に何のために来てもらうのか、来てもらった人がどういう印象で帰られるのか、一度来た人が二度、二度来た人が三度、こうしてもらえるようなまちづくりが今後必要なんだろうと思いますので、このところはしっかりと取り組んでいただきたいというふうに思います。

そして、運動公園の中の野球場に関してですが、ことしは非常に寒い日がありまして、雪も積もったときもあります。そのときに言われたのがですね、野球場のボイラーだったかな、室外機、室外機が屋根の上にあって、しかもそれが囲いが無いということによって凍結とかしたんだというふうにお伺いいたしました。そういったその自然の災害、そんなにあるものではないとは思いますが、外にあるということに関しての、例えばちょっとした壁があることによって防げるものもあるかと思しますので、そういったものと、先ほども言われましたプロ野球がことしもやってきてくれます。

昨年度のときに特に思ったのですが、雨模様でございました。今、外野と呼ばれる運動公園の一角ですよね、あそこが傾斜があり、ブルーシートを張ったりすると当然、自然に滑って前に行ったりとかするわけですが、その辺のところに対するスタンドのように椅子を配置しろとは申しませんが、やはりその訪れられるお客さんに対する、野球を、じゃあ観戦しようというお客さんに対して、そうはいつでも幾ばくかのお金をいただいて入っていただくわけですから、その辺の整備については考えられておりませんか。

(地域振興部長 白石欣也君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 白石地域振興部長。

[地域振興部長 白石欣也君 登壇]

○地域振興部長(白石欣也君) みよし運動公園の野球場につきまして、まず凍結の関係ですが、野球場の一塁側のバルコニーには空調機器用の室外機のほか、給湯装置と貯水槽を設置してお

りますが、ことしの寒波によりまして、室外機等本体部分への被害はありませんでしたが、この給湯装置と貯水槽の配管が損傷したため、指定管理者において修理を行っております。

それから、外野の芝生部分の観戦対策につきまして、斜面の傾斜の緩和や歓談エリアの設置など、整備内容について、どのような対策が実施可能なかを今後しっかりと検討を行っていきたいと思っております。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) 今、給排水管に対する対策をされたかどうかというお答えはなかったんですが、今後、またそういうこともあるかもわからないので、凍結しないように対策はぜひとも打ってもらいたいというのと同時に、この6月28日、間に合うか、間に合わないかわかりませんが、やはりそういった考え方で、三次にお越し、特に外野というのはコアなファンがたくさん来ますので、その辺のところに対する取組、できれば6月28日まで取り組んでいただきたいと思うんですが、日程的に難しいところもありますが、今後そういうところをしっかりと考えていっていただきたいというふうに思いますが、考えていただけますでしょうか。

(市長 増田和俊君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 増田市長。

[市長 増田和俊君 登壇]

○市長(増田和俊君) あえて私のほうから答弁させていただきます。

今、御指摘の外野席についての問題について、私どもも問題視しております。やはり多くの入場客を招いた中での安全性とか、そういう面から、どういう形で、今、部長が言いましたような芝生の勾配を緩やかにする方法ができないか、あるいは他の客席的な面はどうできるものか、そういういろいろな面で検討していくことを、私自身はすべきであると思っておりますので、これはまたあえて、改めてまた議会とも協議させていただいて、しかるべき方向性を出しながら進めていければという思いを持っておりますので、御答弁をさせていただきたいと思っております。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) 備北の材を使った間伐材を利用してちょっと考えるとかですね、しっかり今後ともよろしく願いいたしたいと思っております。

それとですね、運動公園内にあるトイレなんですけど、建物の中じゃなくて外にあるトイレですね。トイレ等々が意外とあるわけですが、スイッチ式の電灯じゃなかったかと思うんですが、これはぜひとも感知式の変えていただきたい。やっぱり、いろんな防犯面でちょっと危のう、問題があるのではないかという指摘もありました。やっぱり感知式でつくると悪いことをしないというのがありますので、ぜひその辺のところはまた考えていただければなというふうに思い

ます。

それでは、次の（３）の定住人口増加策はというところに移らせていただきたいと思います。

当初に申しましたように、合併してからこの間の人口減少というのは、三次市だけではないわけですが、問題になる、今後は自治体として、これにしっかりと取り組んでいかなければならない問題だというふうに思います。

その中でですね、この三次で生まれ育った若者が市外に流出しないようにというのは、なかなか難しい問題かも知れませんが、大学なり１回社会に出るなりして、Ｕターン、もしくはＪターンをしようというときに、その子供たちが帰ってきたい、帰りたいと思えるような政策というか、補助というか、今回も定住対策のほうでいろいろと予算のメニューはつくってあったと思いますけども、ぜひこういうものを利用して、帰ってもらいたいという目玉的なものがあるかないか、お伺いしたいと思います。

（地域振興部長 白石欣也君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 白石地域振興部長。

〔地域振興部長 白石欣也君 登壇〕

○地域振興部長（白石欣也君） 定住対策、特に若い世代、Ｕターンを促進する上での目玉的なものという御質問ですが、定住対策については、本当に幅広く市の施策全体の中でアピールしていくと。やっぱり三次へ帰ってきたい、三次で住みたいというような思いになっていただけるような施策を実施していく、あるいはそれを伝えていくということが大事だろうというふうに思います。

特に、その中で本市の全体の施策としてアピールできる部分、若者向け対策としてアピールできる部分としましては、特に日本一をめざした子育て支援制度、これは大きな三次市の強みだと思います。新年度は保育利用料の多子軽減事業やこども医療費助成事業、地域子育て支援センター運営事業、放課後児童健全育成事業などの事業を拡大し、病児保育室運営事業やひとり親家庭等自立応援プロジェクト事業など、新たに実施するようにしております。これまでも実施している24時間365日の小児救急医療などとあわせ、さらに子育てしやすい環境とし、さらに子育て世代に選ばれるまちをめざしていきます。

また、就労の促進企業支援としまして、新たに女性活躍推進プラットフォーム事業を実施し、女性の働きやすい環境づくりを進めるとともに、基幹産業である農業に対しても活力ある担い手支援事業などのオール三次農産物振興事業や地域おこし協力隊事業、農業協力隊等を実施することで、さらに就業の機会を広げていきます。

また、高校生を対象とした市内企業事業説明会、見学会等も充実させていきますので、これで市内での就業を促進するとともに、Ｕターン者の支援として、また新たに家業を継がれる場合の店舗改修の助成を新たに行っていきます。さらに、みよし運動公園、先ほどありましたスケートパークの整備も行っていきます。みよしあそびの王国室内遊具場の整備も行っていきます。

こういった中で豊かな生活環境の向上を図って、全国に向けて本市の魅力やさまざまな取組を積極的に情報発信をしていきたいと考えております。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) いろいろな補助システムがたくさんあるというふうには思いますが、やはり先ほど部長も言われてましたように、これをいかにPRして知っていただくか、これが大事なんだろうというふうに思います。そのときにまちの魅力というのものも、メニューだけじゃなくて、先ほどから言っておりますけど、この三次の魅力、これをやはり発信することによって、この三次のまちにIターンも含めて、あるのではないかと思いますので、ぜひその情報発信、インターネットであったり、SNSであったり、いろんなものが、今、まちにあふれておりますので、その中で定住、例えば田舎に住みたいとかいうふうにすると、ヒットするのが三次市が一番上に上がるような、そういった戦略も大切なことなのかもわかりませんので、しっかりと取り組んでいただきたい。

もう一つ、これは提案的なものなんですけど、取り組むことができないかと思うのが、若い者に聞いたときに、何が今現在、三次の中で問題だと思うかというふうな質問をして、ちょっと会議をしたことがあるんですが、言われたのが、家賃が高いと言われたんです。三次市のこの状況の中で、広島、例えば福岡であったり、大阪であったりと比べたときに、家賃が高いというのを言われましたので、ああ、なるほど、そうなのかなと。でも、どこで建てても、広島で建てようが、三次で建てようが、建物を建てる時には建築費というのはそんなにひどくは変わらないと思うので、それを家賃収入の中でやりくりしようと思えば、そんなにひどく変わらない家賃にはなるんだろうと思いますが、それが高く感じられるというふうに若い者が言いましたので、この今現在、住宅を取得するとかじゃなくして、アパートで住む、帰ろうとするUターン者、Jターン者に対することも、どこか頭の隅に置いて、今度の政策を考えるときには取り組んでいただけるものであれば取り組んでいただきたいなというふうに思います。

今、子育てのほうの分はかなりしっかりしておりますけれども、住むという住に対してのところの通常のところにも取組をお願いしたいと思います。

そして、この定住の対策の中で、今度は若い者だけではなくてですね、シニア層への取組というのも大変重要なんだろうというふうに思います。空き家対策とかいうものとリンクしながら、当然Uターン、Jターンの方もいらっしゃるかもわかりませんが、Iターンで、三次には今まで全くかかわり合いのなかった方がこの三次へ行ってみようという方を誘致するというのもかなり重要な施策ではないかと思いますが、その取組に対する意気込みはあるでしょうか、ないでしょうか。

(地域振興部長 白石欣也君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 白石地域振興部長。

[地域振興部長 白石欣也君 登壇]

○地域振興部長（白石欣也君） 定住対策全般として三次市をしっかりとPRするという事は、当然、新年度も予算のほうでは1,200万円の予算を計上させていただき、情報発信事業に取り組んでいきます。その中で三次に来てもらうというようなものを、実際に定住対策課のほうでもちょっとそういったモニターツアーのようなものも考えておりますし、あるいは観光事業のほうでいろんなツアーの企画を進めていこうと。観光プロモーション事業で頼るものもありますし、そういった部分も含めて、しっかり来ていただける機会をつくっていきたいと思っております。

（13番 小田伸次君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 小田議員。

〔13番 小田伸次君 登壇〕

○13番（小田伸次君） 若者対策もシニア対策も、人口増加に向けての取組としては大きな問題だと思います。三次の持っているその資産というか、空き家も資産だと思って、それをどんどんまた利用させていただいて、三次市の人口増加につながっていくような政策に今後もしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

いま一度、市長、もしこれに対して、人口増加に対する意気込みがあれば、一言お願いします。

（市長 増田和俊君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 増田市長。

〔市長 増田和俊君 登壇〕

○市長（増田和俊君） 人口減少について、いろいろな角度で小田議員も御指摘をいただいておりますし、また多くの議員の皆さんにもさまざまな面で御指摘もいただいております。

ただ、ここを私自身は分析する必要があるんじゃないかなと。といいますのは、先般、中国新聞に中国山地における50年の歩みの中で、昭和40年と平成、昨年、27年、50年間の推移を旧自治体ごとに大きく掲載された、これ、三次市における大きな分析の1つがここへ記事として載ったなと思っております。

1つは、旧三次市50年間で、わずか2.5%しか人口減少になっていないということでございます。ですから、他の旧自治体、市、町、村含めて、2桁も、多いところは80%を超える、あるいは60%を超える、そうした旧7つの自治体が40から60台に乗っておるということ。旧三次市においても、周辺部を含めながら2.5%しか50年間で人口減少していないということを、やはり私どもも注目していかなければならないと思っております。

したがって、都市機能を12年間で重視してきた、これを大きな強みとしながら、さらに都市機能を、中心市街地の都市機能をさらに充実していくということ、これは私どもも決しておろそかにしてはならないと思っておりますが、同時に40から60%を50年間で減少しておる、そういう実態をどう、これから進めていくか、それは1つは、今、小田委員におっしゃっていただいた、シニア層を含めて、ふるさとへUターンをしていただく、当然ながらIターンも含めてであります。そうした点をいかに環境整備をし、また誘導していくか、これが1つはこれ

からの大きな課題だなという思いを持っておりますから、議会の皆さんとも十分協議しながら、この新聞のデータを中心に、また1つの政策も必要であろうというように思っております。

以上でございます。

(13番 小田伸次君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 小田議員。

[13番 小田伸次君 登壇]

○13番(小田伸次君) 未来に向けて、是々非々で挑戦をしてまいりましょう。

私の一般質問をこれで終了いたします。ありがとうございました。

○議長(沖原賢治君) 順次質問を許します。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 皆さん、おはようございます。

会派ともえの新家良和でございます。今任期最後の最後の一般質問者となりましたので、よろしく申し上げます。

まず冒頭に、今限りで御勇退されます7名の諸先輩の議員、今までの御活躍に敬意を表するとともに、これからの御活躍を祈念申し上げます。

それでは、通告に従いまして、大項目で3点の質問を行いたいと思います。同僚議員の質問とかなりの面で重複しておりまして、できるだけうまく質問しようとは思いますが、もしダブるようであれば御容赦をお願いします。

過去の質問のレビューを含めて、最初に教育行政の諸課題について、何点かお伺いをいたします。

まず、夏場における教育環境の改善について。

三次市の小・中34校の普通教室におけるエアコンの設置率が現在、22教室、全国平均の32.8%、広島県の21.0%に比べても、10%と極めて低率であると。このことについて、昨年9月の一般質問で御要望いたしました。エアコン格差が指摘される中で、三次市の夏場における教育環境の改善として、全ての普通教室のエアコンの設置を実施してほしいと。100%実施化に向けて、経年的な予算化を図り、スケジュール化を行って、順次やっていただきたいというお願いをいたしました。

おおよその財源3億円を必要とするということについても、おおむね市長と私の見解は一致しておったと理解をしております。そのときの市長の答弁の中で、夏休みの期間中に補習等を含めた活用、これが前提条件の1つであるということでしたが、この市長答弁を受けて教育委員会として、教育現場にどのような指導を今日までされたのか、まずお伺いしたいと思います。

(教育長 松村智由君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 松村教育長。

〔教育長 松村智由君 登壇〕

○教育長（松村智由君） 夏場における教育環境の改善ということでの御質問をいただいておりますけれども、教育委員会として各学校のほうへどのように指導してきたかという問いであったかと思えます。

まず、三次市では教育は人づくりであり、まちづくりの基盤ということで、本市では次世代を担う子供たちが夢と希望を抱き、健やかに成長できるまちづくりに取り組んでいるところがあります。そのため、より確実に基礎・基本の定着を図るとともに、主体的な学びを進める必要がございます。

昨年12月に策定しました三次市教育大綱におきましても、本市がめざす子供像の達成のため、各学校が独自に創意工夫しながら、特色ある学校づくりを推進するとともに、その学校づくりに必要な学習環境の整備を行うことを示しているところでございます。

エアコン設置は、特色ある学校づくりに必要な学習環境の整備であると位置づけております。各学校における基礎・基本を培うための特色ある学校づくりや学習環境整備につきましては、先日、校長からのヒアリングを実施いたしましたところでございます。議員御質問のエアコン設置につきましては、予算に限りもありますので、ヒアリングを踏まえ、その内容によって、どこにどのようにつけるのかを検討していきたいと考えているところでございます。

（4番 新家良和君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 新家議員。

〔4番 新家良和君 登壇〕

○4番（新家良和君） 確かに教育委員会からのいろいろな諸指導に対して、34小・中学校あるわけですから、それぞれの学校によって、いわゆる温度差といいますか、取組姿勢の格差があっても当然であろうと思うんですけども、もしそういうことがあれば、これから教育委員会としてどのようにその指導をされていくのか、あるいは対応されていくのか、所見があればお伺いいたします。

（教育長 松村智由君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 松村教育長。

〔教育長 松村智由君 登壇〕

○教育長（松村智由君） 今、議員のほうからございましたように、それぞれの学校におきましては、特色ある学校づくりということで前向きに取組を行っているところであります。その中で、特に今回ヒアリングをしてみましたところ、特にこの夏休みに子供たちを来させる中で、例えば英語検定へ向けた取組をさせて、ぜひそこへ合格をさせてやりたいんだとか、あるいは、同じ学級の中でも子供たちに差異があると、これをしっかりと補っていききたいんだと、そういう強く希望している学校もあるのが事実でございます。

やはり一番大切なことは、本市の子供たちにしっかりとした基礎・基本をつけ、そして自分の夢とか志をしっかりと実現できる子供たちを育てていただきたい。したがって、そういう温度差があるというふうに先ほどもおっしゃっていただきましたけれども、まだまだそこへ

十分至ってない学校もあるとするならば、今後どのように本気になって子供たちに力をつけていただけるのか、またそういうつけ方の具体的な案を提示していただきたいというふうにも、あわせてお願いをしているところでございます。

一番やはり子供たちを大切にした教育のあり方、これを教育委員会も学校も真剣に取り組んでまいりたいと考えております。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 全ての普通教室のエアコン設置化に向けて、おおよそ3億円の財源を必要とするという認識で私は一致しておったと思うんですが、これらの財源の確保について、学校施設環境改善交付金が適用できないのかという質問に対して、そのとき次長は、使えないという御答弁でございましたが、その後いろいろ調べてみましたら、私は使えるのではないかという解釈に立ったんですが、もう一度お願いいたしたいと思います。

(教育次長 中宗久之君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 中宗教育次長。

[教育次長 中宗久之君 登壇]

○教育次長(中宗久之君) 先ほど御指摘の補助金でございますけども、学校施設環境改善交付金というのがございまして、1学校400万円以上の事業に対しまして、その基準額に対しまして3分の1という補助メニューがございます。申しわけございませんでした。

それともう一件、先ほどの新家議員のほうから、今後、普通教室の整備について3億円という御答弁がございましたけども、これ9月の答弁のときに大体1教室当たりエアコン設置のみのケースで120万円程度という御答弁をさせていただいたんで、この3億円という数字が出たのかもしれないけども、これに加えまして、場合によっては変圧器、キュービクル等の設置とか、教室の広さとかによって金額の差が出てきますので、これプラス何億円かのまた追加が出てくるというふうに御理解をいただければというふうに思います。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 3億円という数字を出したのは、あくまでも私の試算であって、残り200の教室を1クラス150万円と想定した場合、例えば庄原市の実績であるとか、他の自治体の実績を踏まえて、私が試算した数字ですから、行政が答えた数字ではなくて、私が試算した数字に対して市長と当時は差がなかったという見解であるということ、今、申し上げたので、それが上回ることを否定するものでも何でもございません。

平成28年度の予算案に小中学校学習環境整備事業ということで、エアコン設置事業に2億600万円予算がとってありますけど、この金額でエアコン設置に回るのは恐らく2億円だと思うんですけども、幾つの学校の数に相当し、また、幾らの教室がこの予算で賄えるのか。そし

て、もしそれが実施されたと仮定すれば、冒頭申し上げた10%の設置率が何%になっていくのか。また前回の質問で、私はできれば3年計画以内のスパンでやっていただきたいということを申したんですが、この2億600万円の予算がもし仮に実行されれば、そのスパンは縮まっていくのかどうか、3年間で2年間になるのか、その辺についてお伺いいたします。

(教育次長 中宗久之君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 中宗教育次長。

[教育次長 中宗久之君 登壇]

○教育次長(中宗久之君) それについてはちょっと詳しく試算をしておりますけれども、先ほど申し上げました1台120万円としましたら、166台ぐらいになろうかと思いますが、それにキュービクル等、いろんな条件が入ってきますので、そこまでの教室には至らないというふうには考えておりますけれども、具体的に数字は、申しわけございません。

申しわけございません。今回、実行させていただくのは、特色ある学校づくりのためにということでございますので、その今から、教育長が申し上げましたように、どれだけの教室を実行していくかという部分についての、今から検討させていただくということで、その試算については、この場では、申しわけございませんが、申し上げられません。申しわけございません。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 予算編成するときの基本的な考え方がちょっとうまく理解できないんですけども、ある程度、1クラス当たりの工事費を積算して、2億円なら2億円の範囲で幾らかとというのはつかめると思うんですけども、またわかった時点でいいですから教えてください。

次に、スクールバスの運行について伺います。

従前の一般車両化から特定車両化にするということで、昨年の夏休み明け、9月から実施ということで業者に2月か3月、昨年の2月か3月に御提案があつて、事業者のほうから議会宛てに陳情書であったか、請願だったかは忘れましたが、要請が来まして、できるだけこれを避けてほしいということで教育民生常任委員会でもいろいろ審査をしたんですが、いずれにしても、昨年の夏休み明けの実施については無理があらうということで、しばらくその猶予をいただいて、事業者としっかり協議をして、双方納得の上で実施するべきだという提案を当時させてもらいました。

それを受けてか、昨年9月の補正予算で公用車としてのバスの購入2,600万円と、継続して従前方式での運送委託料1,200万円が補正予算で計上されました。したがって、昨年の夏休み明けから実施ではなくて、新年度から実施ということにおさまったということで理解したんですけども、この間、運行業者としっかり協議をされて円満に内容が理解されて集約したのかどうか、お伺いいたします。

(教育次長 中宗久之君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 中宗教育次長。

〔教育次長 中宗久之君 登壇〕

○教育次長（中宗久之君） 今年度の一般貸切によるスクールバス運行につきましては、9月補正により委託料を増額いただいて、3月末まで期間を延長し、引き続き、現行のバス業者をお願いをいたしております。

平成28年度以降のスクールバス運行につきましては、安全性のさらなる向上、競争性の確保、地域の公共交通を守るということを踏まえ、市内バス業者と協議を重ねてまいりまして、一般貸切から特定または公用車の運行管理委託に変更することに合意をいただいたところでございます。

具体的には、市民バスを走らせている学校区においては、その事業者随意契約で特定または公用車運行管理委託を、市民バスを走らせていない学校区におきましては、入札により特定運行をお願いすることになりました。公用車の購入については、今年度中に3台を購入するよう契約を済ましたところでございます。

（4番 新家良和君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 新家議員。

〔4番 新家良和君 登壇〕

○4番（新家良和君） 公用車3台の購入ということでございましたが、それではスクールバスの最終形態についてお伺いいたします。

公用車以外に事業者が購入するものも含めて、トータル何台のスクールバスの運行を行い、そして、それを全て前回御提案があったラッピング仕様にされるのかどうか。それから業者が購入する新たな車両についての補助金についてはどのような形になっておるのか、お伺いいたします。

（教育次長 中宗久之君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 中宗教育次長。

〔教育次長 中宗久之君 登壇〕

○教育次長（中宗久之君） 業者が行う特定の車両のほうは7台というふうになっております。そのうち、新たに業者のほうで購入をいただく台数が3台というふうに、新車と中古車というはありますけども、そういうふうになっております。公用車につきましては、6台ということで、そのうち、先ほど申し上げましたように、3台のほう、新たに購入をさせていただくということで、ラッピングにつきましてはこの特定の7台と公用車の6台というふうになります。

補助金につきましては、ラッピングにつきましては、この特定の7台分については補助金、あと公用車については市のほうの委託料というふうになるかというふうに思います。

補助金の金額につきましては、車の購入につきましては、1台当たりが最高150万円となっております。ラッピングにつきましては、最高、ラッピング等で回収も含めまして50万円というふうになっております。具体的な数字については、今、申請書をいただいておりますので、精査をしている状況でございます。

（4番 新家良和君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 新家議員。

〔4番 新家良和君 登壇〕

○4番（新家良和君） ラッピング仕様にした業者のスクールバス、それから公用車はもちろんです。当然、他の業務には転用できないという解釈をしておるんですが、それでよろしいのかどうかと、それから、新しくこういう形態に変えることによって、従前方式を踏襲するよりも行政サイドのコストメリットがどの程度出るのか、お伺いをいたします。

（教育次長 中宗久之君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 中宗教育次長。

〔教育次長 中宗久之君 登壇〕

○教育次長（中宗久之君） ラッピングを施した特定車両につきましては、他の業務には使っていないということでございます。

それとコストメリットについてでございますけども、平成28年度のスクール便委託料の予算要求額と特定を導入せず一般貸切で、また公用車運行管理も平成27年度と同様路線として算定したものを比較しますと、約1億2,000万円と1億3,100万円となり、およそ1,100万円の差というふうになります。このコストメリットとしてあらわされる額とは別に、今回の取組により、特定運行の導入や公用車運行管理路線の拡大が図られたことによって、新しい車両の運行やラッピング等により、子供たちの安全・安心を第一としたスクールバス運行の安全性はさらに向上するものと評価いたしております。

（4番 新家良和君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 新家議員。

〔4番 新家良和君 登壇〕

○4番（新家良和君） 運行業者との協議も円満に終了し、なおかつ特定化することによって、ラッピング仕様化することによって、児童の送迎が安全に保てるということで理解をさせていただきます。

次に、県立の中高一貫教育校の誘致についてお伺いをします。

市長、議長、それから商工会議所の会頭で、県会議員を仲介として広島県や広島県教育委員会に要望に伺ったと。オール三次での要望をしたということと同僚議員の質問でお答えに市長がなりましたが、私はとてもオール三次での取組というぐあいには受けとめられません。議会への説明も、もちろん市民への説明も、今日、明確なものは一切ないわけでありまして、何をもってオール三次で取り組んだかということについては理解できないわけでありまして。

現時点での進捗状況と三次市のこの誘致に対する構想をお聞かせ願いたいと思います。

（教育長 松村智由君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 松村教育長。

〔教育長 松村智由君 登壇〕

○教育長（松村智由君） 現在の県立中高一貫教育の誘致についてということでの御質問でございますけれども、これまでも御答弁させていただきましたように、これまで繰り返し県のほう

にも誘致について話を持っていかせていただいたところでもあります。

具体的な中高一貫教育校の設置につきましては、これまで市長が答弁で申し述べさせていただいたところがございます。私もこのたび、こういう立場で教育長をさせていただくということで、これまでも繰り返し、県の教育長のほうへも話を個別させていただきに参りました。

これまで申し上げたことと同様でございますけれども、まだ、この中高一貫教育校を本市のほうへどのような形で、いつというような明確な回答を得るところまでに至っておりませんので、またわかり次第、これにつきましては報告をさせていただきたいと思っております。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 私は、県立の中高一貫教育校の三次への誘致については、賛成の立場で、今、質問しておりますが、オール三次で取り組むと言いながら、その姿が見えてこないというのが私の実感なんです。

要は官民一体となって、市民も巻き込んで、三次にぜひ誘致をしてほしいという機運が盛り上がらないと、県のほうの動きも鈍いんじゃないかという気が私はしてならないんです。今、唯一、商工会議所の前に看板が立ててあるだけです。まさにその市民を巻き込んだ運動ということにはつながっておらないと思うんですが、その辺が恐らく市長と私の思いの違いではなかろうかなと。誘致することには大賛成であるけど、その取組の過程において、難しい側面があるのかもわかりませんが、やはりその市民を巻き込んだ、それこそオール三次で、ぜひ三次に来てくださいという動きをとるほうがいいんじゃないかと思いますが、その辺の考え方がわかれば教えていただきたいと思います。

(教育長 松村智由君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 松村教育長。

[教育長 松村智由君 登壇]

○教育長(松村智由君) ただいま議員のほうから御指摘をいただきました。まだまだ、この機運の盛り上がり、あるいは市民を巻き込んだ取組、これをしっかりとしていくのが重要なのではないかと御提言であったと思います。とするならば、まだまだ教育委員会といたしましても、この県立中高一貫教育のよさについて、さらに市民のほうへもアピールをしていかなければ、それにつながらないものだと考えますので、今後ともこの中高一貫教育校のメリット、よさについてしっかりと市民のほうへもアピールしていくよう、努力してまいりたいと思っております。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 松村教育長は、府中学園での御経験があるわけですから、その辺も踏まえてしっかりと対応をしていただきたいと思います。要望しておきたいと思っております。

次に、大項目の2点目の三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、お伺いをいたし

ます。

三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略に生かした三次市の強みについて、まずお伺いをいたします。

(副市長 高岡雅樹君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 高岡副市長。

[副市長 高岡雅樹君 登壇]

○副市長(高岡雅樹君) 三次市の強みにつきましては、先日までの答弁の中でもいろいろと、本日もそうではありますが、お答え申し上げておりますので、重複する部分があるかと思いますが、まず強みとして、昨年10月に策定しました三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、この中でもお示しをしておりますが、まずはこれまでの中国縦貫自動車道と中国やまなみ街道、この2本の高速道路がクロスする、中国地方の十字路に位置するという拠点性の向上がまずあろうかと思えます。

さらに、全国的にも注目を浴びている取組もございまして、先進地としても誇れる活発な住民組織の皆様などの、地域や市民の皆様の方、この点が挙げられようかというふうに思っております。

さらに、合併以来集積したハード面での、例えば光ファイバー網による高速通信基盤でありますとか、スポーツ、文化の施設など、そしてソフト面でも充実した、子育て、教育施策、それから医療、福祉体制などの都市生活機能と、さらに自然、歴史、文化、伝統などの魅力あふれる地域資源の調和した、暮らしやすい、このまちであろうかというふうに、こういったことが挙げられようかというふうに思います。

こうした強みは、地域総合戦略プランの中の4つの重点施策であります子育て、教育、定住対策、観光交流、農業、そして、こういったところの重要な要素になっているというふうに思っておりますし、さらにこれらの相乗効果を図ることによりまして、それぞれの強みを最大限生かしながら各施策を展開していこうと、こういうふうに考えております。

大きい方向で申し上げますと、先ほど言いましたように、中国山地の十字路としての拠点性、これを最大限に生かす。言うならば、外なる可能性の活用と、さらに地域や市民の皆様の方を最大限に引き出させていただき、これまでともに歩んでまいりました協働しての地域づくり、これをさらに進化していく取組、こういった内なる力の引き出しによりまして、めざす姿でございます「しあわせを実感しながら、住み続けたいまち～中山間地の未来を拓く拠点都市・三次～」の実現をめざそうとするのが地域総合戦略プランということでございます。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) ただいま副市長のほうから、三次市の強みと4つの重点施策の関連について説明いただきまして、ありがとうございました。

次に、定住人口の減少対策について、何点かお伺いいたします。

三次市の人口ビジョン、昨年の末に作成されたものですが、これについては、15年後、平成42年に人口5万人を堅持、この詳細については昨日の質問でありましたので割愛しますが、人口5万人を堅持するために総合戦略にこれを生かして、各種取組をこれから具体的に行っていくということになります。この人口5万人堅持の中で、合計特殊出生率とか、転入者数をふやしていくとか、いろいろ数値が出ておりますが、極めて高いハードルであろうと私は思っております。

それを受けて、日本一の子育て支援の中で、保育の充実推進事業を取り上げておられますが、これについて、まず伺いいたします。

この中では、具体的な取組として、ゼロ歳児保育、病児保育、以下、一時預かりまで7つの項目について、それぞれ記載をされておられますが、まずこの7つの項目についての現在の実態について伺いをいたします。

(子育て・女性支援部長 瀧奥 恵君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 瀧奥子育て・女性支援部長。

[子育て・女性支援部長 瀧奥 恵君 登壇]

○子育て・女性支援部長(瀧奥 恵君) 現在、本市には私立、公立を合わせて民間保育所が24所ございます。そのうち、ゼロ歳児保育は16所で実施しておりますが、来年度は十日市保育所でゼロ歳児保育室の整備工事を予定しているところでございます。

また、病児・病後児保育につきましては、酒屋保育所内で病後児保育室を実施しておりますが、来年度からは市立三次中央病院内におきまして、新たに病児・病後児保育室を開設する予定でございます。

延長保育は現在、8所で実施しておりますが、来年度からは三良坂保育所でも開始をいたします。一時預かり保育は現在、7所で行っております。休日保育は市内の認可保育所に入所している児童を対象に東光保育所で実施を、1所でございますが、させていただいております。

これらの施策を進める中で、昨年、朝日新聞出版発行の「AERA」において、子育て世帯が移住しやすい街で3つ星の最高ランキングを獲得したところであると思っております。

また、夜間保育につきましては、現在は実施に至っておりませんが、ニーズの把握及び実施形態等の検討をしていきたいと考えております。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 今の子育てに限らず、この総合戦略においてはそれぞれの項目について重要業績評価指数、すなわちKPIという数値をもって基準値と目標値を設定してあります。したがって、この5年間の取組の中で、平成31年には、あるいは平成31年度には現状の数値をこのように持っていきたい、それが全ての項目に掲げられておりますが、今、申し上げた具体的な取組の中の保育の充実推進事業、ゼロ歳児保育から一時預かりまでの7つの項目については、来年度の見通しについては幾つかの答えを願ったんですが、じゃあ、トータルとして平成31

年度はこのように持っていきたいという数値はお持ちなんですか。

(子育て・女性支援部長 瀧奥 恵君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 瀧奥子育て・女性支援部長。

[子育て・女性支援部長 瀧奥 恵君 登壇]

○子育て・女性支援部長(瀧奥 恵君) 平成31年度の目標値については、それぞれのサービスごとの設定数値は持っていませんが、今後とも保育体制のさらなる充実や子育て世代の負担軽減を図る中で、子育て環境日本一をめざしていきたいと思っております。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 当面の目標については、例えば来年度の目標についてはあるけども、この総合戦略に掲げた平成31年度の目標については持ち合わせがない。他の項目についても恐らく同じじゃないかと思うんです。こういったものに対して指標をつくって、5年後にはこういう姿に持っていきたい、それが人口ビジョンに掲げた5万人確保につながるという前提になると思うんですが、今の子育ての関係に限らず全てのこのK P Iの指標について、そういった考え方で今回数字を挙げられておるのか、あるいは子育て以外のことについては平成31年度まで段階的に数値を変えていって、最後このような目標値に到達するんだという数値をお持ちになっておるのか、いずれかお答え願いたいと思います。

(政策部長 藤井啓介君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 藤井政策部長。

[政策部長 藤井啓介君 登壇]

○政策部長(藤井啓介君) 本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略のK P Iの組み立て方ということでございますけども、基本的な考え方は、目標値として平成31年度にこのような姿にしたいと。それを重要業績評価指標でございますから、数字として、指標としてあらわさせていただきますという考え方でございます。

したがって、年々、1年ごとにこういう数字に持っていきこう、こういう数字に持っていきこうという形では作成はしていませんけれども、あくまでこれ目標値として掲げておりますので、そういった意味では総合計画の、いわゆる指標とも同じなんですけれども、その年度でこのような、数字的にはこのような姿をめざして、具体的に施策を展開をしていく中で、こういった指標というのをどのように評価していくかということは、当然その中であろうかというふうに思っておりますし、これについては行政評価等のチェックをする中で、全体的に評価をしていながら進めてまいりたいと考えているところでございます。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 確かに今の子育てに限らず、他の項目でもそうだと思うんですが、例えば

日本一の子育て支援のところでK P Iの指標に上がっているのは、婚活事業への参加者数であるとか、待機児童数であるとか、そういった項目ですよ。この具体的な施策のところは表にあらわれてこないんですが、現実的には具体的な施策を進めていかないと全体としての指標もそれに到達しないということであるので、私はどの段階で実施計画と財政計画に落とし込むかということは極めて重要だと思うんです。確かにアドバランを上げて、それに向けていくんだという気持ちはわかるんですが、やはり具体的に当年度、来年度、再来年度というぐあいに計画を立てて、その目標を細かくやっていただきたいと思いますので、参考にさせていただきたいと思います。

次に、企業誘致についてお伺いをいたします。

同じく総合戦略の中の企業誘致のK P Iは、三次工業団地（第3期）の分譲件数について記載をしてあります。現状の平成26年度が20%の基準値に対して、平成31年度で100%にすると。すなわち第3期の工業団地は平成31年度までには全て分譲ができるようにするということであろうと思います。

現状の20%という基準値は、第3期工業団地を分譲開始してから何年目の数値なのか、お伺いいたします。

（産業環境部長 花本英蔵君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 花本産業環境部長。

〔産業環境部長 花本英蔵君 登壇〕

○産業環境部長（花本英蔵君） 何年目という御質問でございますけども、ちょっと資料を持ち合わせておりませんので、後ほどお伝えしたいと思います。

（4番 新家良和君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 新家議員。

〔4番 新家良和君 登壇〕

○4番（新家良和君） 私の記憶が定かであれば、平成21年の6月から分譲開始であったと思うんですが、もしそうであれば、もう6年半年ぐらいかかって20%ということになりますけども、これをあと5年で残りを全部埋めようということになると、極めて状況的には厳しいのではなかろうかということで考えておりますけど、まず三次市として、どのような業種をターゲットとして今やっておられるのか、あるいはこれからやっつけていかれようとしておられるのか、お伺いいたします。

（産業環境部長 花本英蔵君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 花本産業環境部長。

〔産業環境部長 花本英蔵君 登壇〕

○産業環境部長（花本英蔵君） 本市がターゲットとしています業種は、やはり多くの雇用が見込めること、そして内需中心で、為替変動、特に円高にも強いということから、食品関連を中心とする製造業に絞っております。

（4番 新家良和君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 新家議員。

〔4番 新家良和君 登壇〕

○4番（新家良和君） この総合戦略の中の今の企業誘致と企業支援の項目のところでは、企業誘致に関しては、物流拠点や工場、サテライトオフィスなどという記載がございますけども、今、部長が答弁された食品を中心とした製造業ということであれば、ここに記載の項目は、もう現時点で全て白紙になっておるといってございませうか。

（産業環境部長 花本英蔵君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 花本産業環境部長。

〔産業環境部長 花本英蔵君 登壇〕

○産業環境部長（花本英蔵君） 先日も質問に対してお答えいたしましたけども、工業団地の3期につきましては、もう残りが6ヘクタール余りということで、そこにも多くの引き合いをいただいているという御答弁をさせていただきました。

工業団地の3期については、一応メインとしては食品の製造業を考えるような形に、今、引き合いをいただいております状況になりましたので、これは、これをつくった時点より少し動いているということでございます。ですから、先般、物流拠点については、また県とも協議を行いながら、工業団地（3期）とは別な形で用地の確保でありますとか、議会の皆様ともしっかりと協議しながら進めていきたいという見解でございます。

失礼いたします。それと先ほど3期の分譲開始の時期ということでございますけど、議員おっしゃいましたように、21年6月から開始しております。

（4番 新家良和君、挙手して発言を求める）

○議長（沖原賢治君） 新家議員。

〔4番 新家良和君 登壇〕

○4番（新家良和君） 地方創生と逆行するようなニュースが昨年の秋からことしにかけてございました。1つは三江線の全面廃止の問題、もう一つは京セラディスプレイ広島工場の閉鎖の問題でございます。中国新聞でも大きく報道されました。きょうは時間の関係もございませうので、京セラディスプレイの関係についてを御質問させていただきたいと思っております。

京セラディスプレイの前身は、御案内のようにミヨシ電子、現在のミヨシ電子の液晶事業部門を発展的に分離独立させてつくった1980年創立の広島オプトが前身でございます。最盛期には600人近い従業員もございましたし、年間売上も相当な額を売り上げていきました。私もこの会社に27年勤務した関係上、今回のニュースについては大変ショックを受けておるうちの1人でございます。

平成29年3月を目途に工場閉鎖をするという新聞報道がなされました。実は一昨年、既に社内的にはこの情報は入って、アナウンスしてありますし、三次市へも三次商工会議所へも情報は伝わっておると思っております。このたび、新聞で大きく報道されますと、従業員や、また三次市に与える影響の大きさを痛感するわけでございます。この最初のアナウンスから1年2カ月たった今日まで、多くの従業員が他の工場への転籍や、あるいは転職を余儀なくさ

れておりますし、現在180人近くおる従業員は他工場への転勤、もしくは退職を迫られるということになります。恐らく大半は失業し、再就職ということになると思います。

当然、三次市への税収の問題、あるいは市内の消費活動への問題、あるいはその会社が保有しておる建屋の関係、賃借しております底地の土地や旧工場の問題、大きな課題があると思いますが、私、昨年の3月の一般質問で、この問題に関連して質問をした経緯がございます。当工場は、クラス100のクリーンルームを有した最新鋭の工場ではございますが、この工場をそのまま活用できるような形で企業誘致活動を今日までしてこられた経緯があるのかどうか、お伺いをしたいと思います。

(産業環境部長 花本英蔵君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 花本産業環境部長。

[産業環境部長 花本英蔵君 登壇]

○産業環境部長(花本英蔵君) 京セラの工場の活用についてでございますけれども、先般、市長の答弁にもありましたように、そういった状況でございましたので、表立ってその活用することについての企業活動、誘致活動は行っておりません。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 同僚議員の質問への答弁でもございましたが、京セラディスプレイから正式な要請があれば対応をすとか、閉鎖については正式に聞いておらないであるとか、あるいは公表を控えたとかいったような答弁がございますけれども、一昨年の暮れ、この情報が出たときとまさに同時期にシャープの大リストラの問題が、これもマスコミが大きくにぎわしました。このときは広島県内にあるシャープの工場、福山市、三原市、東広島市、それぞれの自治体、もちろん商工会も含んでですけども、必死にこれらの再就職の世話であるとか、いろんな面で動きをとったということが伝わってきましたけれども、三次市においてはそういうことが全くなかった。

一昨年の暮れに情報があれば、正式であれ、非公式であれ、今日の姿は想定できるわけですから、閉鎖をすればどれだけの従業員がどういうことになるかということは想定できるわけですから、仮に結果がうまくいかなかったとしても、三次市が旗振りをして動いたということがあるだけでも随分と私は印象的には違うと思うんですが、先ほどの福山、三原、東広島市の取組に比べて、本市の取組はよく見えなかったと。悪い表現をすれば、我関せずの感じがしたというような気がするんですけども、この辺についてはどのように思われておられるか、お伺いします。

(市長 増田和俊君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 増田市長。

[市長 増田和俊君 登壇]

○市長(増田和俊君) 京セラディスプレイの問題についての御質問であります。今おっしゃった我関せずというのは、私は納得できない面もあります。確かにおっしゃったとおりで、経済

は本当に生き物だなと思いますと同時に、グローバル社会の中での一つ一つの企業が頑張っておられるということをつくづく感じさせていただきました。

その後の企業の京セラディスプレイそのものの誘致、次の企業を行政がやるべきじゃないかということではありますが、これは私もまだ企業を続けておられる中で、また後ほど申し上げますが、京セラディスプレイそのもののお考えの中で、私自身、行政としてそれをやることができるかなという疑問に思いますし、その点の動きは商工会議所のほうもあつたやに聞いておりますから、そこらも前面に出てどんどんと進めていくというのは難しかったのではないかなと、現実にはそういう新議員がおっしゃったような状況の行動というのは、私どもも見せておりませんが、商工会議所のほうも見えてないなど。したがって、今頑張ってもらっている中で、将来厳しい状況という中でありますが、頑張っておられる中で次の企業を当たるというのは、私はいかがなものかということをお頭に申し上げておきたいと思います。

そして、御質問の件であります。平成27年の9月に本社の社長が就任の挨拶でお越しになられたことは事実でございます。そうした中で、私どもも当社に対してお話もさせていただきました。そうした中で結論というか、まとめとして言わせていただくのならば、会社の意向として、広島工場の件は、市から公表することは差し控えてもらいたいということがあつても事実でございます。

一方、私としても企業という厳しさというのは理解するものの、三次にとっても大きな影響をもたらすものでありますから、最後の最後まで事業の継続に向けた努力をしてもらいたいというのを強く申し上げた経緯があります。それに対して、社長としても最大限の努力を最後まで傾注していきますよということのやりとりがあつたことも事実であります。したがって、そのやりとりを重んじて、これまで公表は正式にそういう会社から受けたということはありませんということの中で、これまで公表は差し控えてきたわけでございます。

ただ、現実の中で社員の皆さんの異動もあっております。市内でも大口では30人余り引き受けておられることも、私ども、十分承知しておりますし、またその間、担当課であります。当社へ、京セラディスプレイさんのほうへも出迎えさせていただいて、市としても努力をいたしますので、ぜひ申し上げてほしいということも何回かお伺いをしておることも事実であります。

今後、会社のほうからそういう面で正式にあれば、それは当然でありますし、引き続いて、ない中であっても、会社に対して行政としての対応は今も続けておりますし、それは表へ出ないといえますか、議会のほうへも公表して、いついつ行きました、行きますという公表はしてありませんが、これからは会社との接点を持っていきたいと思っております。傍観するつもりはありません。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 先ほど言いましたように、私も前身のこの企業に27年間勤めた経緯がござ

いますので、なくなるということについてはその大変さみしい思いもしますし、残念な気持ちがあります。いずれにしましても、180人おる従業員が近い将来、職を失うということは極めて可能性が高いわけですから、一部の人は転籍は可能でしょうけども、大抵の人はそういうことになるだろうと。三次市が旗振りをしてでも、三次商工会議所や広域商工会とうまく連携をして、それぞれ加入の企業さんに1人でも2人でも再就職ができるようなことをぜひやっていただきたいと思います。先ほど市長の見解をいただいたので、それを最後にお問い合わせをしておきたいと思います。

次に、交流人口拡大対策について、1点だけお伺いをいたします。

K P I のところで31年度の総観光客数を310万人ということで設定をされておられます。先ほど小田議員のときに総観客数の27年度の実績見込みがわからないという答弁でございましたので、もうそこは割愛します。この後、三次の文化会館の跡地に建設を予定されております三次地区拠点施設のこの建設に対するコンセプトをまずお伺いしたいと思います。

(副市長 瀬崎智之君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 瀬崎副市長。

[副市長 瀬崎智之君 登壇]

○副市長(瀬崎智之君) お答えを申し上げます。

三次地区及びその周辺には、議員も御案内のとおり、歴史、文化にかかわる遺産でございますとか、街並みや自然などの本市を代表する地域資源が多数ございます。これらの地域資源を活用した活動も盛んに行われているというふうなことでございます。

そういった中で、総合戦略に掲げます三次町の観光まちづくり交流の推進というふうなことで、「新三次“藩”物語」プロジェクトを進めるところでございますが、この中でこの三次地区拠点整備事業、三次町歴史的地区環境整備事業、三次町小路美装化事業、三次まるごとまちごと博物館事業、町屋再生創造拠点化事業等を予定しておりますして、一体的に組み合わせた中で、市外の観光を取り入れた効果を持ったまちづくりを進めていきたいというふうに考えている次第でございます。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) この建設事業が、要はその地域住民に対する憩いの場としての提供なのか、あるいは、そうした地域住民の憩う場所プラス観光客を呼び込む交流人口の拡大につなげる事業としてお考えなのか、この拠点施設のコンセプトについて、もう少し明確にお答えしていただきたいのと、今、副市長の答弁にあった事業を仮に推進したとしても、私は新たに多くの交流人口の拡大にはつながっていかないと、そのように思っておるんですけども、その辺について、もう一度お答え願いたいと思います。

(副市長 瀬崎智之君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 瀬崎副市長。

〔副市長 瀬崎智之君 登壇〕

○副市長（瀬崎智之君） 三次地区拠点整備事業につきましては、平成26年11月に策定いたしました基本計画等のおおりに、まちづくりの情報案内の機能、それから駐車場等によるまぢめぐりの発着地機能、それから魅力、鑑賞、体験、アミューズメント機能、それから歴史文化の伝承機能、それから地区内外の交流まちづくりの貢献機能等の多様な機能を持つ施設として基本計画を進めているところでございます。

この施設は、三次町内のさまざまな資源によって総合的に観光交流人口をふやすための施設というふうなことでございます。単独施設、この施設だけで観光客を呼び込もうというふうなものではございません。みんなで創る「新三次“藩”物語」プロジェクトの各事業と一体となりまして、市内外からの観光交流人口の増加と、さらなる地域の魅力向上との好循環をつくり上げていきたいと、こういうふうにしておる次第であります。

そういった中で、議員御指摘のおおりに、全般的に歴史的なものをテーマにした観光というふうなのは、リピーターがなかなか来にくいというふうなところが一般的にあるかというふうにしております。そういった中で、地域の皆様方と協力をしながらイベントの開催でございませうとか、展示内容の更新等々を機動的に行って、観光客数をふやしていきたいというふうにして考えております。

（4番 新家良和君、挙手して発言を求めらる）

○議長（沖原賢治君） 新家議員。

〔4番 新家良和君 登壇〕

○4番（新家良和君） 要は三次町トータルのいろいろな文化、史跡等々も含めた中で考えていこうというという、それで交流人口の拡大につなげていこうということでございますが、ちょっと時間がございませぬので、またこれは別の機会に質問したいと思ひます。今のままでは、私は交流人口の拡大にはつながりにくい、そういう施設であるということだけ申し上げておきたいと思ひます。

最後に、大項目の3点目ですが、三次商工会議所からの提言ということでお伺ひいたします。

8月31日に中国やまなみ街道活性化シンポジウムからということで、三次市に求められる機能と役割ということで5項目、商工会議所から提言という形で、先般出されたと聞いております。その中から何点かお聞きしたいんですが、まず最初に三次市の知名度を上げるための情報発信活動について、同僚議員の質問とちょっと重複しますが、これについて聞きます。

先ほど総合戦略のところでは三次市の強みについて私が質問しました。逆に三次市の弱みは何であるか、お答えください。

（政策部長 藤井啓介君、挙手して発言を求めらる）

○議長（沖原賢治君） 藤井政策部長。

〔政策部長 藤井啓介君 登壇〕

○政策部長（藤井啓介君） 三次市の強み、弱みということではございますけれども、いわゆる弱みということで、具体的に総合戦略の中でも課題があるといった部分は当然挙げておりますけれ

ども、具体的にこれは弱みだという形では挙げてはおりません。特徴ということで、さまざまな指標を総合計画でも分析をいたしましたし、今回の創生総合戦略をつくる时候にも幾ばくかの分析はさせていただきましたけども、そういう形で理解を我々はさせていただいているということでございます。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 通常、この種の分析をするときには、いわゆるSWOT手法というのがございます。その中でやはり強みと弱みについては、最低限分析するのが常套手段であるとは思いますが、三次市の弱みは幾つかあると思います。まちのにぎわいも、あるいは生産労働力人口も、あるいは雇用の場も、あるいは過疎化が進むといったようなこともそうかもわかりません。

私が一番、三次市の弱みとして指摘したいのは、知名度の問題であろうと思います。まず、三次という名前が読めない、シンポジウムの各パネリストもこの辺のところを大きく指摘されておられました。まず、三次の情報発信をするためには、三次の名前を知ってもらわなくちゃいかんと。三の次と書いて、先ほどの小田議員と一緒にですが、三の次と書いてみよしと読めるということの情報発信をまずすることが先決ではないかと思います。三次市の観光ポスター、宇河弘樹さんのイラストで大変好評の四季の観光ポスターでございますけども、これを今いろんなところに配付されておると思うんです。例えば道の駅であるとか、いろいろ配付されておると思うんですが、どういうエリアにこのポスターを配付されておるのか、お答え願いたいと思います。

(地域振興部長 白石欣也君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 白石地域振興部長。

[地域振興部長 白石欣也君 登壇]

○地域振興部長(白石欣也君) 観光ポスターにつきましては、観光プロモーションの事業の中の取組の一環として、宇河さんをお願いしておるのは、現在は4種類、各シーズンごとに作成したものを配付しております。

これは県内はもとより、県外、中国地方も含めて配付をお願いをさせてもらってる部分がございます。また、詳しい配付先の資料は手元にはございませんので、そうなんですけど。それから、中国、四国、それから九州、関西方面、観光代理店を訪ねまして新たな企画をつくっていただいたりとか、そういったもののキャンペーンにも取り組んでおまして、そういったところにも持っていったりとかいうこともしております。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 観光協会なども、三次の観光、鶺鴒のポスターであるとか、あるいはさ

くら祭のポスターであるとか、恐らく市外、県外にも配付されるんだと思うんですけども、特に県外の方については、みよしと読めない人が圧倒的に多いんですよ。それで、このシンポジウムが終わった後、観光交流課長にポスターに大きく三次と漢字が書いてあるところにルビを振りなさいと、御存じかどうか知りませんが、早速、冬バージョンからルビを振ってくださいます。ただちょっと字が小さいのと、ルビの字が小さいのと、コントラストが悪いのが難点ですが、できればこれは民間も含めて、要は三次から発信するポスターですから、いろんなものについて肝心の三次にみよしと振り仮名を全部つけてください。そうすることによって、まず三次の名前を売ってほしいと思います。これについて、どのように受けとめられるか、お聞かせください。

(地域振興部長 白石欣也君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 白石地域振興部長。

[地域振興部長 白石欣也君 登壇]

○地域振興部長(白石欣也君) 今、議員がおっしゃったとおり、観光ポスターのほうにも、御指摘いただいたとおり、ルビを振らせていただいていると。大きさについても、当初思ってた部分よりは少し大きく、今、ポスターをつくってるというものもございます。また、鶺鴒のほうはルビは振ってないんですが、みよしという平仮名で別なポスターの紙面上で書いて表記もしているという部分、それから、ものによってはアルファベットでMIYOSHIというような表記で出すものもありました。

観光のほうもそういったルビを振ってという形、あるいは平仮名の表記も交えてというような形、今後もしっかり取り組んでいきたいと思えますし、いろんな形でPRをする部分、ポスター、チラシだけでなく、あろうかと思えます。そういった部分も全国的に発信できるようなものはルビをつけたりとか、いろいろ三次と読んでいただけるようなものを工夫していきたいというふうに考えます。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 2点目に物流拠点としての中長期計画の策定、3点目に県北のスポーツ・医療拠点としての宿泊施設の整備、4点目に中国やまなみ街道広域連携活動の継続と主導、5点目に産業構造の再編と6次産業化による所得循環構造、こういった5つの提言が商工会議所からされておりますけども、この提言を受けて、行政として何かアクションをとられたか、あるいは会議所とお話し合いをされたか、伺います。

(産業環境部長 花本英蔵君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 花本産業環境部長。

[産業環境部長 花本英蔵君 登壇]

○産業環境部長(花本英蔵君) この提言を受けまして、5点ございますけども、一応まだ実践はしておりませんが、やはり会議所とか商工会と意見交換をして、どのように情報発信して

いくつか、そういったところを中心に協議をしておる状況でございます。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 時間の関係でこれ以上聞けませんけども、いわゆるその受け取っただけではやっぱり意味がないと思うんです。この受け取った提言、要は三次市の将来のあり方を大変示唆してくれておる提言だと私は思うんです。重要な提言であるからには、やはり官民が一体となって、これを具現化していく必要があると思います。

中国やまなみ街道全線開通による、この三次のロケーションを最大限に生かすということが根底にある提言であると思いますので、その辺について市長の考え方があればお伺いいたします。

(市長 増田和俊君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 増田市長。

[市長 増田和俊君 登壇]

○市長(増田和俊君) 商工会議所の提言に係る御質問であります。初めに経済界からの提言については、当然ながら真摯に受けとめさせていただいておることを冒頭に申し上げさせていただきたいと思っております。

また、先ほどお話の5項目に及ぶ提言内容につきましては、第2次の三次市の総合計画における基本的な考え方と大きな方向性の相違はありませんので、そういう一体的に、また三次と、行政としても進めていかなければならないという認識を持っております。

また、市政方針でも述べさせていただきましたが、人口減少、少子高齢化という厳しい現実と直面する中で、市民の皆さんの幸せな生活を守っていくためには、市民の皆さんと市役所がともに汗して知恵を出し合い、行動していくことこそが最も重要なポイントであると思っております。

三次市は、副市長も申し上げましたように、高速道路がクロスするまちでもございます。特殊性、拠点性、有利性を持ちながら、当然ながら行政として、市役所として、しっかりと汗をかいていかなければなりません。また、経済界、さらには御質問いただいております、新家議員を初めとした議会の皆さんにも、当然ながらお互いに汗をかいていただき、ともに汗をかきながら、本市の未来を切り開いていきたいと思っておりますから、軽々に提言を受けとめておるつもりはございません。

また、情報発信が、私どもは県外、山陰、あるいは近県の中国管内の情報発信をさまざまな面でおこなっているわけでありまして。そこら、議員の皆さんへの情報が十分周知してない、そういう面で、果たして本当にやってるのかという思いも持っていておる面も少なからずあると思っております。当然ながら、テレビの特番の中で三次市を探訪というような中で、三次市も番組をつくっていききたいとか、あるいは、キャラバン隊を派遣してテレビ局、新聞社へ訪問して三次市をアピールしていこうとか、あるいはウェブサイトを制作して進めていこうとか、

さらに県内のバス、広島市内のバスヘラッピングをしていこうとか、さらにはウェブマガジンにおけるPRとか、またJR広島駅のマルチビジョンへ三次市を、JRへお願いして、そういう効果的なPRをしていこうとか、さらには、できれば空港へということも、担当へも指示もしておりますし、また三次への旅行プランとか、いろいろ私が今持っておる資料だけでもやってきておるわけでありまして、そこは決して三次市が、今、誕生したわけではありません。ずっと自治体の名前はずっと引き続いておるわけでございます。

やはり地道にこれからも三次市という、三の次でなしに、三次市としてのイメージアップをこれから進めていかなければならない。そういうアクションをしてないかということはないということも、私のほうで御答弁を申し上げておきたいと思っております。

(4番 新家良和君、挙手して発言を求める)

○議長(沖原賢治君) 新家議員。

[4番 新家良和君 登壇]

○4番(新家良和君) 「三の次と書いて三次と読みます」という歌が出ました。私は三次という、まず読み方を全国に発信してほしいということで、先ほど申し上げたつもりです。いずれにしましても、三次市の最大の強みはクロスポイントになるこの地形です。これを生かして、ますます取り組んでいただきたいということを申し添えて、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長(沖原賢治君) 以上で一般質問を終わります。

お諮りいたします。

あすから14日までの12日間、委員会審査等のため本会議を休会をしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(沖原賢治君) 異議なしと認めます。

よってあすから14日までの12日間、本会議を休会することに決定をいたしました。

この際御通知いたします。

各委員長からお手元に配付の委員会審査日割表のとおり、委員会を開催する旨、申し出がありましたので、御通知をいたします。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

御苦労さまでした。

~~~~~ ○ ~~~~~

——散会 午後 0時17分——

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

平成28年3月2日

三次市議会議長

会議録署名議員

会議録署名議員